

1971 年 8 月 7 日 第三種郵便認可（毎月 6 回 1 の日・6 の日発行）  
2024 年 6 月 5 日 発行 SSKA 増刊通巻 第 11308 号

**SSKA**  
**全国パーキンソン病友の会 会報**  
**岩手県支部だより**  
**第 112 号**



一般社団法人全国パーキンソン病友の会／岩手県支部

〒020-0132 岩手県盛岡市西青山 2-16-13

TEL 080-8086-2746

FAX 019-641-6220

郵便振替番号 02260-8-52118

## 目 次

|                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 巻頭言 「ともに支え合っていこう」   | 岩手県支部長 端坂則喜…………… 2   |
| はじめまして              |                      |
| 申しわけありません… ごめんなさい！  | 菅野三枝子…………… 3         |
| 主人とともに 13 年         | 阿部かよ子…………… 3         |
| わが地区万歳！             |                      |
| のどかな処です①            | 中屋落實…………… 4          |
| 「夢のような話」ですが「全部本当の話」 | 舘市鉄男…………… 5          |
| 盛岡にお出っくなんせ          | 鈴木四郎・和子…………… 6       |
| 県南地区万歳！             | 小山利彦…………… 7          |
| 友の会活動の紹介            | 菊池正晴…………… 7          |
| 社交ダンスよもやま話          | 石川昌市…………… 8          |
| 周尾スミ子様を偲んで          | 中屋落實…………… 9          |
| インタビュー／端坂新会長に聞く     | インタビューアー大場光記…………… 10 |
| 国会請願署名募金活動……………     | 12                   |
| 衆議院公報……………          | 13                   |
| 和み頁 川柳を詠む……………      | 14                   |
| 会報編集局だより……………       | 15                   |
| 支部事務局通信……………        | 16                   |
| 編集後記……………           | 17                   |
| 通信用……………            | 18                   |

### 表紙の言葉

小さな流れも集まれば大きな流れになるように  
岩手県支部も会員皆で協力し合っていきましょう。

(端坂則喜)

表紙写真／端坂則喜

裏表紙・本文さしえ／佐藤さく子

## 巻 頭 言

### 「ともに支え合っていこう」

岩手県支部長 はしごかのりき  
端坂則喜

本年度より、全国パーキンソン病友の会岩手県支部長を務めさせていただきます端坂則喜です。前会長の白土延子さんおつかれさまでした。

若輩者で未熟な点が多々あるかと思いますが、精一杯務めさせていただきますのでご理解とご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

パーキンソン病歴は10年以上です。順天堂大学病院主治医からDBS手術を勧められ、様々な書籍を読み、「職場に復帰するためにはDBS手術しかない」と期待していました。手術のために入院し娘と一緒に執刀医の説明を受け、「明日手術です」と告げられましたが、しばらくして病室に執刀医がきて手術中止が告げられました。（私が退席した後に娘が執刀医に妄想・幻覚が酷いと告げたことで手術できないと判断された）

「天国から地獄に落とされ失意のどん底」「なにもする気になれず、生きていてもしょうがない」と発作的に考えることもありました。信頼している「友の会」の友人に状況を説明したところ、「何とかなさ」「前を向こう」と言われました。普通だったら「そんな適当なことをいうな」と受け入れられないはずなのに何故か心に響き精神的に楽になりました。

その後、入院してLドパ製剤以外の薬剤を順次中止し、定期的に精神科のカウンセリングを受けて3か月後にDBS手術を受けましたが、職場復帰はかなわず岩手の実家に帰ることを決断しました。岩手に帰ってからも杖を使って100メートル歩くのもやっとの状態でしたが、「歩けるようになりたい」との強い思いで毎日リハビリ、散歩を続けることで3か月後には5000歩以上歩けるようになり、車も運転できるようになりました。「努力は必ず報われる」ことを実感しています。毎日欠かさず四季の移り変わりを楽しみながらリハビリ、10000歩の散歩を続けています。

「ともに支え合っていこう」を巻頭にかかげたのは、同じパーキンソン病患者からの一言は心に響き精神的に安定することを私自身が経験し実感しているため、パーキンソン病の患者、家族・介護者が交流会等で情報交換を活発にできる岩手県支部にしたいとの思いからです。

そのためには、お互いを信頼できる関係づくりが大事、信頼できる関係づくりは言葉だけではなく、誠意をもって行動し相手に接することでできるものと考えています。

私自身の経験を伝えることが療養の参考になって欲しいとの思いで各地区の交流会に参加させていただいています。岩手県支部長になっても変わらず各支部の交流会に参加させていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。



雨ニモマケズ

## インタビュー／端坂新会長に聞く

インタビューアー：大場光記（県南地区世話人・会報担当）

### 端坂新会長紹介

氏 名：端坂則喜  
生年月日：1962 年 5 月 26 日  
年 齢：62 歳  
出 身：岩手県岩手郡葛巻町  
病 歴：パーキンソン病歴 10 年以上  
2020 年 3 月順天堂大学病院で DBS の手術  
2020 年 7 月岩手郡葛巻町の実家に戻る  
全国パーキンソン病友の会 岩手県支部入会  
主 治 医：岩手医科大学付属病院



大場（以下 O）：まずは会長就任おめでとうございます。本当の気持ちを申しますと会員離れといいですか、社会全体が変革を余儀なくされている難しい時だと感じている折から、こんな時に自ら手を挙げて強いリーダーシップを発揮されんとする姿に会員皆がホッとしたと思いますし、頼もしく思っているでしょうね。それにしても思い起こされるのは 3 年前のことになりましょうか。当時の会長が全会員にハガキでアンケートを送付し、アンケートの結果次第では「岩手県支部」を解散せざるを得ないと言われたことですが、あの時、端坂新会長は神奈川から葛巻に帰られた直後と言えば直後ですがどのように見られておられましたか。

端坂（以下 H）：アンケートの件に答える前に葛巻に帰ってすぐに「岩手県支部」に入会しました。盛岡地区で交流会が開催されるとの連絡を頂き自分で車を運転して交流会に参加しましたが、会報発送準備をしながらテーマもなく雑談（少なくとも私にそう感じた）その後も交流会に参加しましたがまたしても同じ。遠路盛岡の交流会に参加する意味を感じなくなっていました。アイーナで開催された「岩手県支部」パーキンソン病講演会に初めて参加させていただきました。コロナ禍で集会の開催は避けるようにと政府が呼びかけている状況下で人数制限して開催したと思いますが、休憩中に大声で歌っている女性には驚きを通り越して呆れてしまいました。あまりにも不快だったので退席し帰宅しました。後日、会報 98 号にアイーナから歌は禁じられていましたが、会長の独断で OK にした。しかも 3 曲の予定が 5～6 曲歌ったと記載されていたのを目にして「会長が独断で許可できる問題ではない」と不信感がより強まりました。総会資料は総会前に全会員に配布するのが常識だがそれもしていない。盛岡地区を中心にボウリングや卓球等の活動を提供し、参加できない会員に寄り添う姿勢が見られない。退会も考えていた矢先に一方的なハガキによるアンケート。記憶では会長等の役員になると手を挙げる会員がいない。ということは「岩手県支部」の存在を自己否定していることと考えられるので休会もやむを得ないという私には理解できない内容だった。①他の役員に相談したのか？相談したとしたら他の役員も同じ考えだったのか？後から耳にしたところ会長の独断だったらしいがそうすると他役員はなにをしていたのか？組織の体をなしていない②アンケートをみて退会する人が多くでるだろう③そもそも会長になると手を挙げる人がいないのは、会員全員の状況把握することもせず、自分達の都合で活動を企画、参加できる会員だけを相手にしているから、会員との信頼関係ができない。しかも役員間で情報共有していないので手を挙げる人がいないのは当然であると思った。

○：あのような事態になりたくないのに、会員一人ひとりが自覚して協力しなくてはならないと思いますが。

H：会長の独断で決定するのではなく、役員で協議して決定する組織に変えなければならない。それができないのに会員一人ひとりが自覚して協力することを望むことはできないと思います。お互いに信頼し合える関係づくりが必要だと思います。そのためには地道に誠意をもって行動し接することが大事だと思います。

○：ところで端坂さんと言えば宮沢賢治ではないですが、この日本一広い県内を相談したいことがあると言われれば内部講師として出かけ、この2年間で3巡くらいしたのではないのでしょうか。かなり精力的に動かれていますよね。

H：私の原点は失意のどん底の時に信頼できる「友の会」の友人に「何とかなるさ」「前を向こう」と言われ救われた経験にあります。

相手に信頼してもらえなければ、「岩手県支部」の役員だけでできることには限界があります。令和5年度の総会後から「岩手県支部」の現状と問題点を把握するために運営を含めて積極的に関わってきました。「岩手県支部」の存在意義を明確にして役員全員で共有する。そうすることで役員間の信頼関係ができると信じて1年間頑張ってきました。役員間の信頼関係づくりと同様に各地区世話人、会員との信頼関係づくりも大事だと思っていますので、各地区の交流会には積極的に参加させていただいています。3巡くらいしましたかね。

○：10月には北海道・東北ブロック会議のホスト県という大役が待っていますが、準備等はいかがですか。

H：令和5年度総会後に運営を含めて積極的に関わってきたといいましたが、その中の一つに北海道・東北ブロック会議の準備も私が担当しますと秋田県大会、青森県大会資料を参考にしてやらなければならないことをリスト化し担当者を決めて進めてきました。昨年度後半にはプログラム案を北海道・東北ブロックオンライン会議で各支部に提示しています。せっかく岩手県で開催する大きなイベントなので、会員以外のパーキンソン病患者、家族・介護者にも周知できればと花巻市公報、北上市公報、一関市公報、難病連だよりへの掲載をお願いしました。6月発行号に掲載される予定です。4月末には「岩手県支部」全会員、北海道・東北ブロック各支部長に岩手県大会開催要項等関係資料を配布して7月15日までに参加者を確定したいと思っています。5月19日の総会で私が会長になってから岩手県後援、岩手日報社後援、花巻市後援、花巻市長の挨拶等を依頼します。依頼文書は作成済みです。

○：最後に今年度の事業計画で注目してもらいたいことがあれば、伺いたいですが。

H：これまで同様、各支部交流会に積極的に参加させていただきますのでよろしくお願いします。交流会に諸事情で参加できず、悩んでいる方は気軽に電話、メール頂ければ一緒に考えさせていただきたいと思います。

「ともに支え合う」ために頑張ります。

1971年 8月 7日 第三種郵便認可（毎月6回1の日・6の日発行）

2024年 6月 5日 発行 SSKA 増刊通巻 第11308号



編集人 一般社団法人全国パーキンソン病友の会／岩手県支部  
〒020-0132 岩手県盛岡市西青山 2-16-13  
TEL 080-8086-2746 FAX 019-641-6220  
振替番号 02260-8-52118

発行人 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0073 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17  
ヴェルドゥーラ祖師谷 102  
TEL 03-6277-9611

頒価 400 円